

令和4年7月13日

鈴木委員

先ほどの先行会派の続きで、ドローン、ちょっと聞きたいと思うんだけど、先ほど課長さんが、マグロがどうのこうの言っていたじゃない。このドローンって幾らするの、マグロの、要するに群れを探すだの、うだうだ言っていたじゃん。

未来創生担当課長

ちょっと今、資料が手元になくて確認させていただきますけれども、相当な高価なものです。

鈴木委員

私ははっきり言っておくけれど、この県庁の中に蔓延しているのは、この紙の中に書いてあるとおり、みんな点なんだよ、あなた方やっているの。実証実験をやりました、ばかり書いてあるんだ、この中。それを面にしてみろっていうのよ、私は前々から言っているけれども、何でアリバイみたいな形でもって実証実験ばかり書いてあるの、ここに。昨日も私、産業労働でも言ったけれども、先ほどさらにロボット産業特区って出たけれども、何年やっているの、10年間だよ。何一つ出てこないというよりも、どこかで見たようなロボットがごろごろ書いてある。実証実験こうやりました、なにやれるだろうと、人のお金でもってやっているんだから、あなたら。その成果も取られないで、やりましただと言っている世界って、申し訳ないですけども、行政しかないよ。私は最初に申し上げておくよ。何かあなたの答弁聞いていると、さも実証実験、もう私、6年前に、猿の問題があって、ドローンを使えって言ったのが5年か6年前ですよ。それも1回やったきり、何でもなし。みんなそうなんだ、あなた方のやること。テレビと新聞なんか載ったら、それっきりだよ。いや、点だけなんだ、いつも。面にしろ。面にするのがあなた方の仕事なんだよ。これ、まず最初に言っておくよ、イントロとして。あまり聞いていて、申し訳ないけれども、私も腹立たしくなってきた、これやりました、あれやりました。だから何なんだ、それが広まっているかって、何も広まっていないじゃない。ドローンなんか、私、水中ドローンまで言っているよ。全然出てこない。水中ドローンなんて、今、遺体の確認なんだって水中ドローンでもって、どんどん他県でもって進んでいる。何やっているんだ神奈川はと思っていたよ。みんな実証実験なんだ。点だけやる。みんなこんなのもそう、イベントをやりました、それがどうだったんだという総括がないんだよ、県庁というところは。だから、私なんかからすると、それは突然何かでもって出てくるわけだ。

最初に私お聞きしたいのは、神奈川のSDGsパートナーというところですよ。これって、目標ってどこに置いているの。パートナーを増やすとかなんかっていろいろあるんだけど、どこに目標を置いているんですか。

SDGs推進担当課長

かながわSDGsパートナー制度に関しまして、今、現状、認知から行動に移していくという新たなステージに入ったというところで、現状、具体的な企

業様の行動を生み出していきたいという取組を進めていくということに考えておりますが、ゴール自体の設定は、大変恐縮ながら、今現在まだできていないところではございます。

鈴木委員

それはそうだよ。かながわブランドデザイン見たって、SDGsなんてどこにも書いていないじゃん、これ。マークだけはいっぱいしているけれども。マークだけいっぱいしているんだ、17も。これでそうです、ところで何をしたいの、一体。SDGsパートナーというより、全体のSDGs運動で何がしたいの。

SDGs推進担当課長

SDGsにつきましては、2030年のゴールを目指しまして、様々な取組を進めていきたいというふうに考えておりましたが、全庁的な取組としましても、各課で取組を進めている中ではございますが、その中でもSDGsパートナーは私どもが中心となって、SDGsの企業への経営に取り込んでいただく、各企業の取組でもってSDGsを多くの方に広げていく、そういったことを目指して取組を進めているところでございます。

鈴木委員

今のあなたの話は、私ども井戸端会議しているんじゃないんだから。見える化しなきゃどうしようもないだろう。そんなふうに見えている中に一つ出てきたのが、SDGsパートナーというやつだよ。これ読んでみると、まず一つ、私気にかかったのは、応募要件の中のSDGs関係の中に、経済、社会、環境の3側面全てに関わる取組を実施していることって書いてあるね。何でこれ、経済、社会、環境なの。いっそのこと、ESGにしちゃえばいいじゃん。何でこれ、わざわざ経済なんて入れたの。要するにESGとなると経済じゃないだろう、例えば、ガバナンスだから。それを何でわざわざ経済ってしたの。

SDGs推進担当課長

こちらの取組、この登録制度、経済、社会、環境というところで入れさせていただきます趣旨でございますが、内閣府のほうでも経済、社会、環境、3側面に取り組むことを重要視して、そういった取組について、SDGs未来都市というところで取組を進めてほしいと言われております。そういった趣旨を踏まえまして、私どもも民間企業の皆様に経済、社会、環境というところで、3側面で17のゴールを大きく分類した形でお取組を進めていただきたいという趣旨から、こういった形で設定したところになります。

鈴木委員

でも、課長、そう言うならば、この中の、応募したら出てくるメリットというか、要するに中に、何で融資なんて入っているの。だって、経済ということがあったんなら、経済が盤石であるなら融資なんか必要ないじゃん。何でこれが入っているんだろう、経済って。

SDGs推進担当課長

経済、社会、環境、それぞれの側面で全てに対して取組を実施していただくことをお願いしております、その中では、ますます事業を推進する際には融資も必要になってくる場面もあるかということで、金融支援についても入れて

いるという趣旨でございます。

鈴木委員

今、課長さん、そういう変な論理は展開しないほうがいいと思うよ。じゃ、逆に、この中でもって経済的な、ある意味でショートしている、そういう融資というのは、この800会社のうち何社あるの。全然ないの。要するに、少しでもプロモートしようというような形で融資を受ける、そういう人ばかりなわけ、融資の要件の中に入っている、融資の要件をもし受けたとしたら、この人たち。それは全て事業の拡大とかそういうことに使っているの。要は、資金繰りが足りないから、変えるためにそこの中に入っているっていうのだから、あってもおかしくないじゃないですか。

SDG s 推進担当課長

そこについては、特段規定は、明確に区別はしていないところではあります。

鈴木委員

じゃ、何で選んでいるの、これ。要するに、140字、私見たよ。ここにうだうだ書いてある、140字ぐらい、八百何社の。これ、申し訳ないですけども、書いてあることが現実にそうなのだったって、申請はできるじゃないですか。あなた見に行くわけじゃないだろう。これどうするの、経済というところにわざわざ融資って入っているというのは。私、だから逆に、融資というようなことが、いいように伝わるならいいよ。だけれども、ショートしているところであるならば、経済、環境、社会というものの中に1つでも、3つの輪の中の1つが欠けてるかもしれないとなったら、認定しちゃいけないじゃん。応募しちゃいけないじゃない。その要するに見える化って、どうされていらっしゃるんですか。

SDG s 推進担当課長

現在、SDG s パートナーを登録していただくための申請をいただきましたが、申請していただいた企業様のホームページを確認させていただいております。そこで例えば経済だったら経済、社会、環境、その全ての取組について御確認させていただくとところで、確認しているところではございます。

鈴木委員

そういうのが一番、だから私さっきから言っているように、こういうようなことで八百何社、だけれども、私なんかから言わせてみれば、この3つそろってるんだったら、中小・零細企業の方であるならば、この3つが全部整ってるなんて、申し訳ないですけども、本当に大変だと思うよ。要するに、どのゴールを目指しているのか、そして、この要件は合致しているのかというようなことをしっかり県民の方へ、また、応募される方に見える化しなかったら、こういうような事業をどれだけやったって、何もならないじゃないと私は思っているわけだよ。配られるのはバッジ。バッジつけている人はいっぱいいるけれども、そういう状況の中でもって、これ、室長どうなんですか。もうちょっと見える化、しっかりしたらどうなの、これ。

いのち・未来戦略本部室長

今、委員御指摘のとおり、実は神奈川県内に企業は、大企業、中小企業というのは約19万社ほどあります。我々一つの目指すゴールとして、その19万社

の方たちがSDGsに取り組んでいただく。つまり、普及のフェーズは終わって実践に移っていただく、そこが大事だと思います。この実践というところの鍵になるのが、今言っていた見える化だと思います。果たして今、見える化に対して我々がどこまでできているかというのは、率直なところ十分ではないと思っております。一つ思ったのが、個々の企業さんが頑張っているというところもそうです。もう一つは、本当に中小に限るとするのは18万7,000ぐらいなんですけれども、18万7,000のところはどれだけ頑張っているのか。これをどういうふうな形で外に見せていくか。もう一つは、それを分かりやすい形で見せていかないと、多分、その後が続く、例えばこの分野のこの企業さんはここまでSDGsできました、それを参考にさせていただいてほかの企業さんも取り組む、そういうところにもつなげていかなきゃいけないので、多分見せ方、見える化についてもかなり工夫が必要だというふうに考えております。いずれにしても、そこはしっかり検討していきたいというふうに考えています。

鈴木委員

室長、しっかりと見える化するということは私大事だと思うので、これだけやっても、この辺は初めて、申し訳ないけれども、皆さん方のグループとこうやって質疑交わしたんだけど、これはないだろうなど。もうちょっと要するに見える化した中で、きちんと、何がどうなっているかという、あなた方、PDCAとかって言うよりも、EBPMとかもきちっと見た上で、エビデンスベースでもって見ろよということの一つ要望しておきます。

あわせて、神奈川県科学技術政策大綱というの、何かえらいいかめしいことで、多分俺、特別委員会入っていなかったら、議員のあれでは見ないだろうなど思ったぐらいで。ところが、あなた、これ見てみると、随分雑駁な大綱じゃないの、これ。施策見てみると、何だ、字面だけいっぱい、経済のエンジンを回す科学技術活動の展開とか、ここに何個かあって、県有知的財産等の創出・活用の中に、県試験研究機関等の研究活動による知的財産の創出及び活用の推進だって、分かんないだろ。俺は読んでいて分からない。どうするの、これ。こういう、例えば大綱つくるのは結構だけれども、俺見たら6次だよ。6次の大綱見ていて、県民はもし万万が一、見る人なんてあまりいないだろうけれども、これ見ました人は、何やっているのかなという、目標もなければ、何も書いていないんだ、これ。課長、私お聞きしたかったのは、私の認識が違っていたらごめんね。ここに書いてある、要するに第三セクターという言い方をしちゃいけないのかな。県の諮問機関も入っているんだろうから。この人たちというのは、ある意味で決算とか何とかというようなものに対しての実績なんて、何も触れないまま、どんどん毎年いくわけじゃん。ところが、私、これ偶然に見た中でもって、いろんなことを目指していることをいっぱい書いてあるよね。これに対する総括というのはどうしているのかね。

科学技術イノベーション担当課長

今回骨子案で出させていただいたところは、議決案件ということで、科学技術施策としてどのような方向性を進めるかということを書かせていただいております。今後、第4章のほうで主な施策というところで、毎年度の県の事業ですとか、そういったものをしっかりと位置づけしていきたいと考えているとこ

ろでございます。あと、これらの取組につきましては、年一回、科学技術会議のほうで、その年度の進捗ですとか、今後どういった施策を推進すべきかという意見をいただきながら、例えば、そういった意見を受けて国のいろんなプロジェクトに申請したりですとか、そういった活動を展開しているというところでございます。その中で、委員おっしゃられるとおり、神奈川県科学技術の活動が県民にどのように分かりやすく伝えるかということについては、非常に大きな課題であるというふうに認識しております。

鈴木委員

課題じゃなくて、どうするんだと聞いているんだ、私からすると。だって、これ申し訳ないけれども、企業だったらどなられるぜ、社長に。だって、ここに書いてあるのは、目標もなければ、要するに総括記述とかは何もないんだよ。この中にやたらめったら書いてある。私なんか、ここを見ていて笑っちゃったのは、俺が5年前かな。あなた持っているかね、10ページのところにあるんだけど、力触覚技術を応用した医療福祉ロボットの開発という、これ何年前から出ているか知らないけれども、既に新聞に出ているのね、慶應大学とかやっているの。これ要するに、リアルハプティクスというやつだよ。私これも全部、ずっと5年前から私もひでしTVでも扱ったけれども、いつまでもこれ書いてあるんじゃないの、こうやって。要は、県民からすれば、税金使って何しているか分からない。いや、申し訳ないけれども。ゴールはどこなの。できたものは県民が享受できるのかできないかというような、EBPM並びにPDCAってあなた方が年中お題目のように唱えているものが、何一つこの中に入っていないというのが、この大綱なんだよ。どうするの、課長。課長に聞いてもしようがない、室長に聞いちゃったほうが早いかな。

いのち・未来戦略本部室長

今、委員の御質問を聞いていて、割と我々が県民の方にどう伝えるかというところに主眼を置いて考えてきたことがございます。本当に大切なのは、伝えるか以上に、どう伝わっているかということだと思っただけですね。この資料、確かに県民の方がそのまま御覧になっていただいても、中身もそうですし、どれぐらい進捗したのかなかなか分からないと。いくつかそれを改善するための方法はあると思うんですけども、その一つとして、例えば、実はメディアの力というの少し活用させていただけないか。つまり、我々はこういうものを作りました、だけれども県民の方、あるいはメディアで御覧になっていただける方、こういうような伝わり方というのは住民の方は分かりやすい。我々のこういう取組自体をメディアの力を使ってお伝えするというのも一つの方法かなと考えます。なので、そこは一つの選択肢として考えていきたいというふうに思っています。

鈴木委員

室長、それも結構だけれども、もう一つ、大綱の在り方、考えなよ。今要望にとどめておきます、私、常任じゃないから、特別なのでフランクに話させていただいているので、一応考えておいてください。

あわせて、もう一つは、ME-BYO BRANDというやつ。これME-BYO BRANDって、こういう文言があるんだね。知らなくて、今まで。こ

れをME-BYO BRANDになると、何かいいことあるの、これ。

未病産業担当課長

具体的な企業様のメリットとしましてですが、ブランドロゴや未病の商標を使用できたり、県が主催する未病産業関連のイベントなどでPRができたり、県が記者発表、ホームページなどで積極的なPRをさせていただいたり、あとは県のふるさと納税の返礼品として使っていただけるというようなメリットがございます。

鈴木委員

課長、答弁苦しいんだろうけれども、どれぐらい売れているの、これ。要するにブランドつけて、ブランドつけるんだろう、これきっと。俺見たことないけれども、こんなブランド。神奈川県ME-BYO BRANDってついたら、すごい売れるのかい。

未病産業担当課長

企業様からは、認定後に問合せが増えた、商品の認知度や信頼性が上がったなどのお話はいただいております。どれぐらい売れたかということにつきましては、私どもとしても知りたいところなんですけれども、企業様の情報でなかなかそれはお出しただけないところもありまして、今そういう、できる範囲での情報を御提供いただけないかというようなお話をさせていただいているところで、できるだけ取りまとめて御報告できるようになればとは思っているところなんです、なかなか厳しいところはございます。

鈴木委員

よかったね、入らなくて、データが。これ見ていて、あなたのところ今回書いてあるけれども、PASESAというの、血圧が何かあれして動脈がどれぐらい進んでいるか分かるかという、腕を通すとうんぬんかんぬんというの。これ幾らするの。PASESAというんじゃないの、これ。(株)志成データムというところから出ている。腕突っ込むと血圧がどうのこうのって、二十何万もする。これ幾らぐらいするのかね。大体でいいですよ。

未病産業担当課長

申し訳ありません、今資料持ち合わせておりませんので、後ほどお答えさせていただきます。

鈴木委員

私は、これ相当高いと思うよ。普通の要するに血圧計だって買えない方が大変に多い中で、動脈まで測れるものだったら、少なくとも四、五万はするでしょう、最低でも。もっとするのかな。

未病産業担当課長

もっと相当高いと思います。

鈴木委員

要は、私、何言いたいのかということ、あなた方がまたこれでもって同じことをやっているんだよ。実証実験みたいな、こうやってブランドを増やすみたいな。県民がそんなの買えるか。いや、医者が買うんだったら私はいいよ。ところが、県民に、要するにブランドというので広げるんだったら、ブランドなんでしょう。ブランドというのは広めるためにあるんだよ。広めて、なおかつク

オリティーがいいからあるんでしょう。例えば、グッチだ、何だ、みんなそうじゃないですか。同じものかもしれないけれども、ブランドがついているから、要するに買いたい、安全だ、また高い、これ持っている、みんないいなというようなものだけれども、かながわ何とかブランドというのさえ、私も知らない中で、県民がこんなつけていて、おっ、買ってやろう、すごいじゃないかなんていうのは、私はないんじゃないの。

あわせて、もう一つ課長に言いたいのは、もうちょっと色気を出したME-BYO BRANDというロゴを考えたほうがいいんじゃないの。かわいいとか格好いいじゃなかったら買わないですよ。グッチとかカルバンとか、いろんなあれだってそうだけれども、ノースフェイスだって、みんなそれなりのロゴに、もらいたいというものだけれども、見た限り、こんな、申し訳ないですけども、赤っぽい、これは何とかの未病というのを表しているんだろうけれども、悲しいな、何かちょっと。よろしくお願いします。

未来創生担当課長

先ほど鈴木委員のドローンの値段はどうかということで御質問いただいたところで保留させていただきまして答弁でございますけれども、確認しましたところ、まだ販売前でございます、値段がまだ設定されていないということでございましたので御報告します。

鈴木委員

確かに高いから、後で教えてよ。とにかく、点だけやったのを面にして、お願いしますよ、皆様方。